

ソフィアだより

11月

あきのひ

のぎく みちこ

かぜがとおりすぎました
わたしは はなびらを ゆすりました
だれかに よばれたきがして ふりかえると
ゆうひが くるくると しずむところでした

(のはらうたより・くどうなおこ著)



急に秋が来て、園庭や公園、歩道の木々の色も深まり始めました。
落ち葉や木の実を拾いながらこどもたちが自然に触れ合う姿もみられます。
その様子をみて、子どもたちの「なんで?」「どうして?」というつぶやきに私たち大人がどう答える
かがとても大切だと感じます。

最近、動物言語学者として注目されている 鈴木俊貴さんの幼少期のエピソードに心を打たれました。
彼は、小さいころから生き物の観察が大好きで、ある日、「図鑑にはかぶとむしが最強ってかいて
あるのにクモがカブトムシを食べていた」とお母さんに話したそうです。
すると、お母さんは、「あなたの見たことが正しいから図鑑を書き換えなさい」と言ったのです。
その言葉が鈴木さんの背中を押し続けました。彼は、自分の目でみたことを記録し続け、やがて
『しじゅうから』という鳥にも共通の言葉がある。という新しい発見をし「動物言語学」という分野
を築きました。今では世界中の研究者から注目されています。

このお話から子どもがみたこと、感じたことを信じてあげることの大切さを改めて感じます。
大人の言葉が子どもの未来を照らす灯になるのです。
子どもたちの「好き」や「気づき」を大切にしながら、見守っていく保育にしていかなければと思ひ
ます。

ソフィア東生駒こども園 園長 中畑 直実

